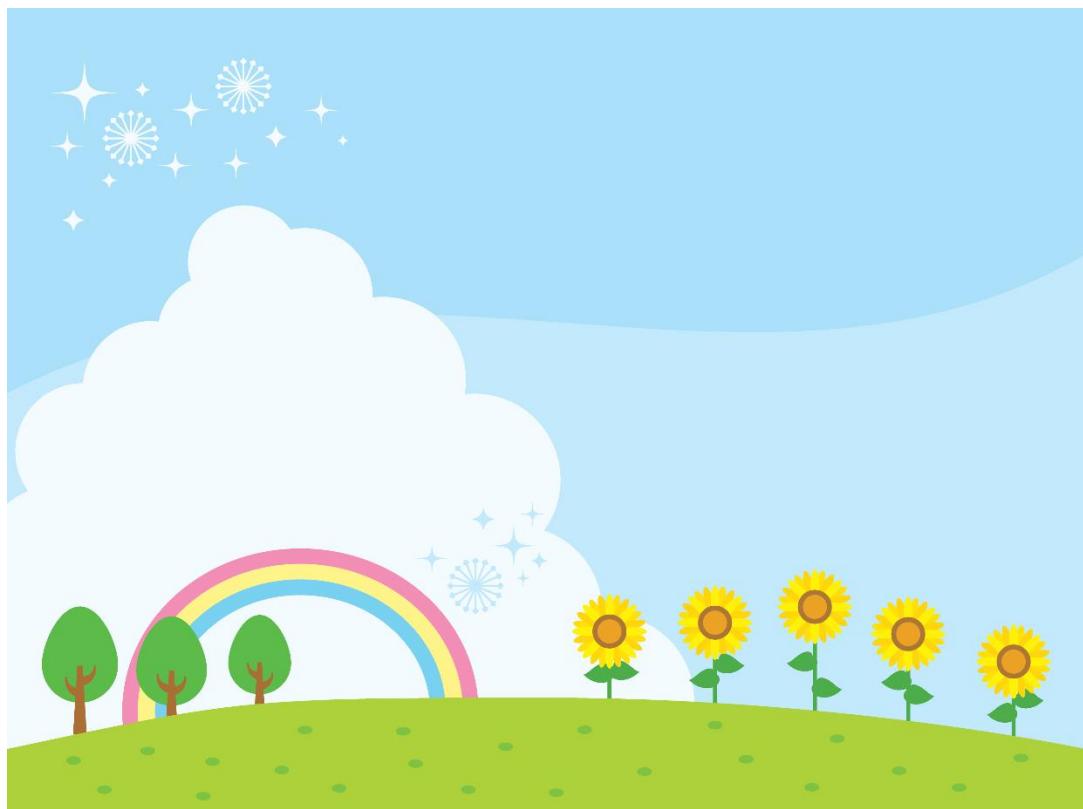


エコアクション21 環境経営レポート



取組期間 (2022.4～2023.3)

2023年 4月 24日作成

有限会社 森山商店

<目次>

| | |
|----------------------------------|------|
| 0. 目次 | 1 |
| 1. 環境経営方針 | 2 |
| 2. 会社概要 | 3, 4 |
| 3. 環境経営目標とその実績 | 5 |
| 4. 主要な環境経営計画 | 6 |
| 5. 環境活動の取組み結果の評 | 7 |
| 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 | 8 |
| 7. 代表者による全体の取組み状況 の評価及び見直しの結果 | 9 |

1. 環境経営方針

基本理念

有限会社森山商店は、地域との共生を図り、緑豊かな地球環境の保全とその継承の重要性を認識し、会社及び社員が一丸となって、持続可能な循環型社会の構築に貢献することを基本理念とします。

方針

有限会社森山商店は、産業廃棄物、一般廃棄物の収集運搬業及び廃品回収業としての事業活動を通して 繼続的な環境負荷の削減に取り組むために、次の環境方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地域の環境保全に貢献する企業を目指します。

1. 当社の業務運営に関わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境経営の継続的改善に努めます。
2. 当社に関する環境関連法規制などの要求事項を順守します。
3. 当社の事業活動に係わる環境影響のうち、以下の項目を環境経営重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 電気使用量の削減
 - (2) 運搬車両燃料使用量の削減
 - (3) 廃棄物リサイクル率の向上
 - (4) 総排水量の削減
4. すべての社員が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境方針を全従業員に周知します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し、環境改善活動を推進します。

2006年11月 1日制定

2017年 1月 8日改訂（代表者変更）

2018年 4月 1日改訂

有限会社 森山商店

代表取締役 森山 慶子

2. 会社概要

①会社名：有限会社森山商店

②所在地：本社 熊本市南区錢塘町 211-1

③代表者名：代表取締役 森山 慶子

④環境管理責任者氏名及び連絡先

専務取締役 森山春幸

T E L : 096-228-4956 FAX: 096-228-4957

E-mail: m-syoten@sa2.gyao.ne.jp

⑤事業内容：産業廃棄物・一般廃棄物収集運搬業・廃品回収業

⑥事業の規模

資本金 3 百万円

売上高 131 百万円(2022 年度) 【95.5 百万円(2020 年度)】

一般廃棄物取扱量：1,669.0t、産業廃棄物取扱量：847.6 t

従業員数 26 名(2022 年度) 【23 名(2021 年度)】

事業年度 每年 3 月末決算

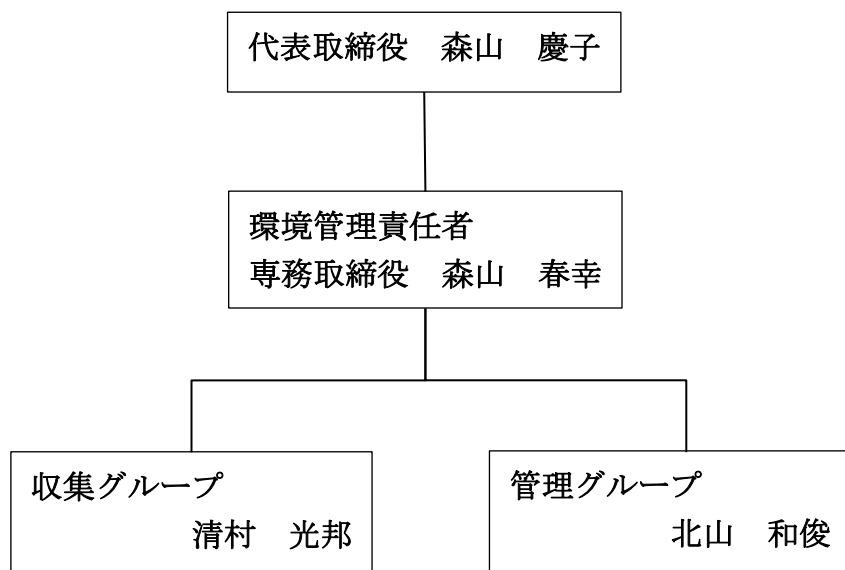
沿革 1952 年 個人創業

1989 月 4 月 (有) 森山商店設立

2015 年 8 月 17 日 本社移転登記

2017 年 1 月 8 日 代表変更

⑦環境経営組織図



責任と権限

| | |
|---------|--|
| 代表者 | ①環境経営の最高責任者 ②環境方針の制定、環境目標及び環境活動の承認 ③環境経営システムの評価、全般的な見直し |
| 環境管理責任者 | ①環境経営システム全体の構築・運営の責任者 ②環境経営システム実績等の代表者への報告 ③環境目標、環境活動及び環境活動計画書の確認、指示 ④環境経営システムに関する問題の明確化と記録の総括 ⑤緊急事態発生時の判断 |
| 社員 | ①環境方針、目標の理解 ②環境活動の理解と実施 ③改善の為の提案 |

⑧許可の内容

●一般廃棄物収集運搬業認可

熊本市認可番号 第 22R-26 号

有効年月日：令和 4 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

事業区分：収集運搬業

事業の範囲：ごみ（事業ごみと臨時の家庭ごみ）

●産業廃棄物収集運搬業認可

熊本県認可番号 第 4301030260 号

有効年月日：令和 2 年 6 月 18 日～令和 7 年 5 月 15 日

事業の範囲：汚泥、廃油、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物の糞尿、動物の死体、ばいじん

事業区分：収集運搬業

●施設などの状況

運搬車両の種類

| | | | |
|-------------|------|------------|-----|
| 4 t 塘芥車 | 3 台 | 2 t ダンプ車 | 2 台 |
| 2 t 塘芥車 | 10 台 | 2 t 平ボディー車 | 1 台 |
| 4 t 塘芥車アーム車 | 2 台 | 2 t ユニック車 | 1 台 |
| リフト | 1 台 | | |

積替え保管施設なし

●廃棄物処理料金

収集運搬料金は都度、お見積りさせていただいております。

3. 環境経営目標とその実績

(1) 過去の実績

| | 単位 | 2019度 (実績) | 2020度 (実績) | 2021 (実績) |
|-------------|--------------------|---------------|---------------|--------------|
| 二酸化炭素排出量 | kg-CO ₂ | 155,122 | 162,071 | 183,810 |
| 電力使用量 | kWh | 9,413 | 10,128 | 9,446 |
| ガソリン使用量 | L | 合計：57,235 | 4,594 | 3,973 |
| 軽油使用量 | L | | 56,803 | 65915 |
| 産業廃棄物リサイクル率 | % | 66.8 | 71.3 | 92.4% |
| 水資源投入量 | m ³ | 473 | 476 | 532 |

※ 電力の二酸化炭素排出係数は、下記を使用した。（3年ごとに係数を更新する。）

①2019年度まで：九州電力（平成25年度）の実排出係数の0.617kg-CO₂/kWh

②2020年度から：九州電力（令和2年度）の調整後排出係数の0.480kg-CO₂/kWh

※EA21に取組むに当たり環境への負荷の自己チェックを行った。その結果、当社の事業である廃棄物収集運搬業を考慮した環境目標は二酸化炭素排出量、電力使用量、燃料使用量、廃棄物リサイクル率、水資源投入量が抽出された。これらの過去の実績は上記に示すとおりである。

※ P R T R法対象の化学物質の取り扱いはない。

(2) 環境経営目標

| | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|-------------|--------------------|--------|--------|--------|
| 二酸化炭素排出量 | kg-CO ₂ | 前年1%削減 | 前年1%削減 | 前年1%削減 |
| 電力使用量 | kWh | 前年1%削減 | 前年1%削減 | 前年1%削減 |
| ガソリン使用量 | L | 前年1%削減 | 前年1%削減 | 前年1%削減 |
| 軽油使用量 | L | 前年1%削減 | 前年1%削減 | 前年1%削減 |
| 産業廃棄物リサイクル率 | % | 70% | 70% | 70% |
| 水資源投入量 | m ³ | 前年1%削減 | 前年1%削減 | 前年1%削減 |
| 一般廃棄物の削減 | — | — | 分別活動実施 | 分別活動実施 |

①環境目標は、3年間の目標として、二酸化炭素排出量、水資源使用量の削減を目指し、前年度を基準とし年率1%削減を目指す。

②廃棄物排出量の削減については、一般廃棄物は、収集運搬で収集した一般ゴミと事務所内から排出される一般ゴミがあるが、収集運搬での削減は困難であり、事務所内の一般ゴミは排出量が少ないので産業廃棄物のリサイクル率向上を目指す。

3年間は固定で70%を目標とする。

③グリーン購入は、可能な環境商品を購入することとする。

目標には掲げないが、計画を設定して環境活動を実施していく。

4. 主要な環境経営計画

| 目標項目 | 下記の削減に取り組む | 評価 |
|--|---|--|
| 1. 二酸化炭素排出量の削減 前年度比 1 %削減 (単位 kg-CO ²) | <ul style="list-style-type: none"> ・電力使用量削減 ・運搬車両燃料使用量削減 <p>個別の取り組みは以下のとおり。</p> | <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 2. 電気使用量の削減 前年度比 1 %削減 (単位 kWh) | <ul style="list-style-type: none"> ・不在時には、消灯 ・空調の適正管理 ・廊下、トイレ等の不必要的電灯の消灯 ・エアコンフィルターの掃除 ・効率的な社内作業 ・効率的な洗車（高圧洗浄機） | <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 3. 運搬車両燃料使用量の削減 (ガソリン、軽油) 前年度比 1 %削減 (単位 L) | <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・急発進 急停止の自粛 ・効率ルートの検討 ・燃料使用量の把握 | <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 4. 産業廃棄物のリサイクル率の向上 リサイクル率 70 % (単位%) | <ul style="list-style-type: none"> ・排出事業者への分別依頼と分別指導 ・再生、再利用可能な処理業者との情報収集 ・委託品の内容に応じた適切な業者への搬出 | <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 5. 水使用量の削減 前年度比 1 %削減 (単位 L) | <ul style="list-style-type: none"> ・洗車節水 ・運搬車両の整備、美化 ・節水シール貼付、節水意識の向上 | <input type="triangle"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 6. 一般廃棄物の削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・分別箱の設置 ・分別活動の実施（全社員で） ・月末の実施状況の確認 | <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 7. グリーン購入 | <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限りエコマーク商品などを購入 ・コピー用紙は再生紙を購入する。 | <input type="radio"/> <input type="radio"/> |

判定基準： ○ できた △できてはいるがあと少し × できなかつた

5. 環境活動の取組み結果の評価

(1) 2018 年度の取組み結果

| | 単位 | 2021 度 (実績) | 2022 年度 (目標) | 2022 年度 (実績) | 達成度 (%) | 評価 |
|-------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|------------|----|
| 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 183,810 | 181,972 | 201,445 | 90 | △ |
| 電力使用量 | kWh | 9,446 | 9,352 | 9,667 | 97 | △ |
| ガソリン使用量 | L | 3,973 | 3,933 | 3,129 | 126 | ○ |
| 軽油使用量 | L | 65,915 | 65,256 | 73,467 | 89 | × |
| 産業廃棄物リサイクル率 | % | 94% | 70% | 92% | 131 | ◎ |
| 水資源投入量 | m3 | 532 | 527 | 520 | 101 | ○ |
| 一般廃棄物の削減 | — | 分別活動 の実施 | 分別活動 の実施 | 実施できた。 | 100 | ○ |
| グリーン購入 | — | グリーン品目 の購入推進 | グリーン品目 の購入推進 | 推進できた。 | 100 | ○ |

達成状況判断基準：◎ 110%以上、○ 100%以上、△ 90%以上、× 90%未満（是正対象）

□取組み評価及び次年度の取組内容

| 項目 | 評価 | 次年度の取組み |
|-------------|--|--|
| 二酸化炭素排出量 | 目標は未達成。電気、軽油の使用量が増加し、ガソリン使用量は削減できた。 | 下記に記載します。 |
| 電力使用量 | 目標は未達成。夏場の酷暑でクーラー使用が増加した。社員が努力し、事務所の節電、クーラーの効率的な利用に心掛けたが及ばなかった。 | 積極的に環境活動を実施していきます。 継続して削減に取り組みます。 |
| ガソリン使用量 | 目標は達成。市の委託業務も定着化し、営業で出る機会が少なくて済んだ。 | 今以上に環境活動を意識して削減に取り組みます。 |
| 燃料使用量 | 目標は未達成。市の委託業務が増加し、軽油の使用量を大幅増加した。新型コロナの復旧の効果があり、収集委託業務の増加で収集運搬が増加したためである。効率も低下した可能性がある。 | 市の委託所業も増加し、定着化したので、今以上に業務の効率化を意識して削減に取り組みます。 |
| 産業廃棄物リサイクル率 | 目標は達成。産廃自体は減少傾向であるが、リサイクル可能な産廃が増加したためにリサイクル率が増加した。今後共、顧客への分別提案や新たなリサイクルルートの開拓など、引き続き取り組んでいく。 | 継続して分別、リサイクルに取り組みます。 環境経営目標は、中長期目標期間は経緯を見る。 |
| 水資源投入量 | 目標は達成。要因は、受託した廃棄物量の増加と衛生向上に伴い洗車回数も増加した。この状況で、水の出しづらさをしないように意識した洗車を推進した効果が表れていると思われる。 | 継続して効率的な利用に心掛け、削減に取り組みます。 |
| 一般廃棄物の削減 | 目標に設定してから、社員の意識がさらに向上した。効果あり。 | 継続して取り組みます。 |
| グリーン購入 | 文房具のエコ製品購入を継続して取り組むことができている。 | 継続して取り組みます。 |

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規等への違反はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。訴訟もありません。

環境関連法規等の遵守チェック表

* チェックは 毎年 3月に実施する。調査実施日 2023年 3月 11日

| 適用を受ける施設・物質 | 適用法規 | 法規の要求事項 | 適正 | 不適正 |
|---|---|---|-----------------------|-----|
| (廃棄物) 産業廃棄物 ・廃プラスチック・廃油、金属くず・ガラスくず・陶磁器くず、がれき類、ゴムくず・コンクリート、アスファルト | 廃棄物処理及び清掃に関する法律 | 運搬・処分業者との委託契約 マニフェストの交付・回収 産廃処理状況の報告 | ○ ○ ○ | |
| 接触三床方式浄化槽 | 浄化槽法 | 特定施設届出 法定検査 点検 清掃 | ○ | |
| 業務用エアコン | フロン排出抑制法 | 業務用エアコン管理者の簡易・定期点検 | ○ | |
| (廃棄物) ・パソコン ・テレビ・エアコン ・業務用自動車 ・建設廃材 ・容器包装 | 改正リサイクル法 家電リサイクル法 自動車リサイクル法 建設リサイクル法 容器包装リサイクル法 | 長期使用、再生資源の努力義務、適正処理 買換時リサイクル料負担、適正処理 車検又は買換時リサイクル料負担、適正処理 建設廃材の適正処理 適正に分別排出する | ○ ○ ○ ○ ○ | |

チェック担当者：環境管理責任者

8. 代表者による全体の取組み状況の評価及び見直しの結果

2022年度での取組みの状況結果は、ガソリン使用量、水使用量、一般廃棄物、グリーン購入の項目は目標を達成できているが、他の項目は、未達成に終わった。2年前は新型コロナの影響を直に受けて、事業自体が停滞した。2020年度は、一般家庭、法人からの収取運搬の依頼が増加し、事業が徐々に動き始めた。これが各環境負荷の増加につながった。更に2021年度は、熊本市の収取運搬の委託も受けることができ、今後も事業は動き始める。毎年の変化が大きい。

2022年度は、昨年度からの市の委託事業が増加してきた。その影響で軽油の使用量が増加するとともに急な変化で効率が低下したようにも思える。社員の意識向上を図り、業務の効率を上げることを推進していきたい。

重要なことは、各社員が改めて環境活動の重要性を自覚して、ムダ、ムリ、ムラをなくし、環境負荷の低減に取組むことである。社員全員が環境への取り組みの重要性をしっかりと理解し、実施していく。将来に向けて、更なる環境負荷の低減に努める。

| 環境経営システムの見直し事項 | 変更の必要性 | 内 容 |
|-------------------|--------|---------------------|
| 環境経営方針 | なし | 社内浸透するよう、継続し取り組むこと。 |
| 環境経営目標 | なし | 社内浸透するよう、継続し取り組むこと。 |
| 環境経営計画 | なし | 社内浸透するよう、継続し取り組むこと。 |
| 実施体制 | なし | 継続し取り組むこと。 |
| その他、代表者が必要と判断した情報 | なし | 特になし。 |